

# 数学

名古屋大学 文学部、教育学部、法学部、経済学部、

情報学部（人間・社会情報学科）（前期） 1 / 1

## <全体分析>

試験時間 90分 解答問題数 3題

### 解答形式

全問論述式。

### 分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化）

### 出題の特徴や昨年との変更点

全問小設問によって構成されている。

②の(1)と(3), ③は理科系と共通問題であった。

### その他トピックス

6年ぶりに数列からの出題があった。

3項間漸化式を立てるタイプの確率漸化式の問題が出題された。

## <大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
①	微分法	数学Ⅱ	放物線外の点から放物線に引いた2接線によって定まる角が一定値以上となる条件を求める。	やや難
②	場合の数・整数	数学A	ある自然数 $N$ について、積が $N$ の階乗となる3つの整数の組の個数を、 $N$ 以下の素数の個数を用いて表す。	やや難
③	確率 数列	数学A 数学B	平面上を移動する点を与えられた領域に存在する確率。漸化式を立てて、不等式を証明する。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

今年の文科系の問題は、昨年に比べてやや難化した。計算量も増加し、思考力を問う問題も増えている。確実に得点するには、典型的な問題を必ず解けるようにした上で、煩雑な計算にも耐え得る計算力を養っておくことが大切である。参考書などで問題の解き方をマスターした上で、過去の入試問題や入試攻略問題集（河合出版）を十分に研究し、問題文を正しく読み取り状況を的確に整理する力をつけておこう。

今年、文科系では6年ぶりに数学Bからの出題があった(確率漸化式は8年ぶり)。油断せずに対策していたかどうかで大きく差が開いたと思われる。今後もしっかりとした練習が必要であろう。